

## 最新ヘッドにベストマッチ 「V2」はATTASの 新“ど真ん中”シャフト

ATTASのシリーズ10作目として2018年に登場すると、プロからアマチュアまで幅広く支持を集めた「The ATTAS (ジ・アッタス)」。その後継モデルとして登場したのが昨年12月に発売された「The ATTAS V2」。一体どんなシャフトなのか？

PHOTO/Akira Kato

「The ATTAS」はATTAS 10年の集大成だった

ひと足先にPGAツアーで火が付き、2009年に登場した「ATTAS」。以来、毎年ニューモデルを投入し、そのユニークなネーミングで話題となってきたが、節目となる10年目に登場したのが「The ATTAS」だった。手元部から先端部までの剛性を極限まで滑らかにすることでATTAS史上最高の振りやすさを実現。どのようなスウィングタイプでもタ

イミングが取りやすく、高次元の安定性と飛距離性能を併せ持つ、まさに「飛びの集大成」というべきモデルで、トッププロからアマチュアまで、数多くのゴルフアークがぞって使用。現在でも金谷拓実のエースシャフトとして知られている。「ATTASのど真ん中シャフト」とも言われ、完成度の高かった「The ATTAS」に、なぜ後継モデルが必要だったのか？

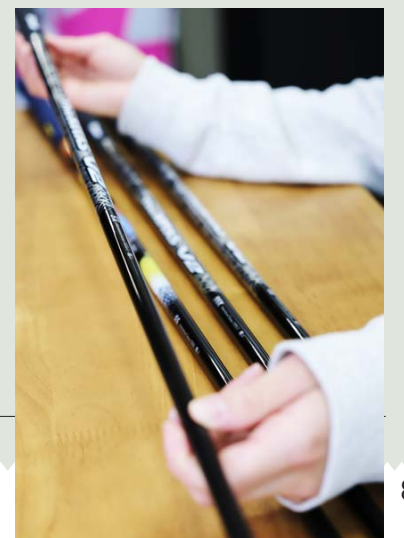
この4年間でヘッドとスウィングが進化した



「『The ATTAS V2』が必要となった最大の理由は、ヘッドの進化です」とUST Mamiya a Japanの橋添恵さん。

「『The ATTAS』は当時のヘッドに合わせたシャフト設計でしたが、この4年でヘッドの性能は大幅に向上し、慣性モーメントはより大きく、ディープで操作性の高いモデルも登場しています。そこで最新ヘッドに合わせて、厳選したマテリアルを使用して、トルクを絞って設計したのが『The ATTAS V2』なんです」（橋添

鮮やかなコスメが特徴だった歴代ATTASシリーズだが、「The ATTAS V2」はシルバーとブラックのツートンにパールホワイトのロゴとシンプルで、どんなヘッドにもマッチしやすい



さん・以下同)。

シャフト先端部には4軸カーボンシートと、高弾性・高強度の「トレカ®M40X」を採用。高めの先端剛性により、大慣性モーメントヘッドでは当たり負けを防ぎ、操作性の高いヘッドでは操作性を損なわない。さらにシャフト全長に2種類の高弾性シートを採用したことで、トルクを強化。ニューtralな剛性分布はそのままに、ロートルク化することで、キレのあ

UST Mamiya Japan  
橋添 恵さん

UST Mamiya FITTING LABO 東京ではフィッターも務め、クラブセッティングの整合性、スウィングタイプ、ショットデータを総合的に診断し最適なシャフトを提案する



る振り心地を実現したという。「ヒューマンテストも従来の3〜4倍行いました。ロートルクになりましたが、『The ATTAS』の誰が打っても「クセのないしなりの感」を実現するために、剛性分布も再設計し、よりニューtralになっていきます。誰が打っても振りやすく、クセのないのがクセになるでしょう」

「The ATTAS V2」はATTASの新しい基準シャフト

ATTASでは「The ATTAS V2」を「新時代のど真ん中シャフ

ト」と呼び、ATTASシリーズのポジショニングマップでは、ど真ん中に位置付けられている。

「まずは、『The ATTAS V2』を打って、右に行くようなら、つかまるシャフトを。左なら、つかまりにくいシャフトを、というようにATTASシリーズの基準となるシャフトにもなりました。とにかく操作性がいいので、大慣性モーメントの安定したヘッドでも思い通りに振れるし、ロースピンの小ぶりでハードなヘッドでもコントロールしやすい。「The ATTAS V2」は「ヘッドとプレーヤーのパフォーマンスを最大限

に発揮するシャフト」なんです。実はこれ、ATTASのブランドコンセプトでもあり、まさに原点回帰、初心に戻ったシャフトでもあるんです」

すでに多くの女子プロが「The ATTAS V2」を使用

「ロートルクになったため、操作性がより高くなりました。シビアなプレッシャーがかかったところで力を発揮するため、すでに多くのプロに受け入れてもらっています」

今シーズンの開幕戦から原英莉花が使用しているのを始め、西郷真央、桑木志保、石川明日香、永嶋花音らが「The ATTAS V2」を使用。橋添恵は「The ATTAS V2」でステップ・アップ・ツアー初優勝を挙げた。

「4年前に多くのゴルファーに受け入れてもらった『The ATTAS』ですが、『The ATTAS V2』は、さらに進化した自信作。クセがなくタイミングが取りやすい中調子なので、より多くのゴルファーに受け入れてもらえると信じています」